

富山県

旧太田村の石仏

資料作成：滝本やすし(石川県金沢市)



西番観音堂内の石仏など

常願寺川は古くから暴れ川として知られ、幾度も氾濫を繰り返してきた。特に安政五年の地震に伴う2度の大洪水では、左岸の広い範囲に大きな被害をもたらした。また氾濫による濁り水の流入によって各地で疫病が流行した。常願寺川の堤防付近には、洪水によって流されてきた巨石が数多く残されている。またこの地域には、水の安全を願う水神塔や洪水による犠牲者の供養塔がいくつも建てられている。

太田村は明治二十二年の町村制施行によって、太田本郷村、大場村、横内村、石屋村、長屋村、城村、西番村、中屋村、関村が合併して発足した。太田本郷村は現在の富山市太田、大宮町、太田南町である。また長屋村は現在の八川である。昭和十七年、富山市に編入された。

この地区には数多くの石仏がみられる。『富山市石仏石塔等報告書』（昭和五十八年、富山市教育委員会・京田良志民俗サークル）に報告されているが、富山市全域の石仏の数は非常に多いので、写真や銘文の詳細などは掲載されていない。太田地区の主要な石造物については『太田郷土史』（昭和六十二年、太田郷土史編纂委員会）に報告されているので、参照していただきたい。

旧太田村の個人宅では墓地などにも多くの石仏が残されているが、これらが未調査なのは残念である。これらの地域では屋敷神を祀る旧家も多く、報告されているのは一部のみで、悉皆調査は困難であろう。

西番 曹洞宗正源寺／馬頭観音、宝篋印塔など

中屋村にあった真言宗東仙寺が下番村へ移り、さらに天正二年に経塚村(現在地)へと移り、曹洞宗に改宗された。釈迦如来を本尊としている。秘仏の木造聖観音立像が県の文化財に指定されており、本堂内陣の天井に描かれた鳴き龍で知られる。庚申講で使用されていた青面金剛像の掛軸が残されているが、金糸による刺繍が施された立派なものである。

門前右手に地蔵や馬頭観音が並んでおり、境内にも天明五年銘の宝篋印塔や地蔵などの石仏がみられる。大きく「心」と彫られた巨石は常願寺川氾濫によって流されてきたもので、以前は門前に置かれていた。門前の富山霊園入り口左に、「摩利支尊天」と刻まれた石塔が建てられている。



正源寺門前の石仏



正源寺庚申掛軸

西番 曹洞宗鉄心寺／ 鎮宅不動など

鉄心寺は正源寺の200メートルほど西に位置する。布目大安寺十四世鉄心の隠居寺として明和元年に建立された。鉄心没後、大安寺の自覚によって鉄心庵とされた。釈迦如来を本尊としている。現在は無住となっており、荒廃が進んでいるようだ。

参道入り口に木造の小堂が建てられており、半跏地蔵と不動明王座像が納められている。その左には自然石を彫りくぼめた龕の中に、両手で数珠を持つ地蔵立像が納められている。

本堂の手前のコンクリート製の基壇上に、聖観音立像と4臂の不動明王座像が並んでいる。4臂の不動明王座像は鎮宅不動とも称され、地鎮目的で造立される。文政十三年銘が刻まれた台石上に載せられていたのだが、現在は失われてしまっている。鎮宅不動の作例は極めて少なく、近県では石川県の白山麓の神社境内のものが確認されるのみである。

墓地には五輪塔や宝篋印塔の残欠、地蔵などの石仏が多数残されている。



鎮宅不動

西番 市営富山霊園／徳本名号塔

西番霊園の奥、常願寺川堤防を背にして数多くの名号塔や地蔵等の石造物が並べられている。その中央に、徳本行者の名号書が刻まれた自然石の石塔が建てられている。平井氏によって「南無阿弥陀仏／徳本(花押)」「文政十一戊子天／月十四日両親／於此■嶋渡浪」「施主小杵驛／水上屋／治良左エ門」と解説されている。



徳本名号塔

西番 共同墓地／常願寺川供養塔

西番共同墓地内に、安政五年の常願寺川氾濫によって流されてきた巨石が残されている。2年後の萬延元年に大洪水の犠牲者の供養のため、その上に角柱型の石塔が建てられている。正面に大日如来像を彫り、その下に「光明真言供養塔」と刻まれている。左側面に、光導行者の書と思われる丸い文字の名号が刻まれている。光導は五十八歳ほどで、各地を行脚し名号塔の造立を行っていた頃であり、この供養塔の造立にも関与されたのであろう。



常願寺川供養塔

西番 路傍／地蔵、青面金剛、「道祖神」

街道から少し入った路傍に、3基の石造物が並んでいる。右から、割石を彫りくぼめた石龕に納められた地蔵、笠付円盤型の青面金剛、「道祖神」と刻まれた文字塔である。笠付円盤型の青面金剛は全部で4基確認されているが、これには明治十五年の銘があり、最も新しいものである。



「道祖神」、青面金剛、地蔵

西番 観音堂／西國三十三ヶ所観音など

西番北口バス停近くに、木造の観音堂が建てられている。中央奥に木造の釈迦如来座像が、右に弘法大師座像が並んでいる。その周囲には、39体の石仏が配されている。39体の石仏は、観音が35体、薬師如来が1体、地蔵が2体、不動明王が1体である。

これらの石仏は、もとは常願寺川近くの旧街道(立山街道)沿いに建てられていたものである。当初は旧街道沿いの観音堂に集められていたが、昭和初期に新街道が整備され、現在地に新しい観音堂が建てられた。さらに平成に入り現在の観音堂に建て直されている。



西番観音堂内の石仏など

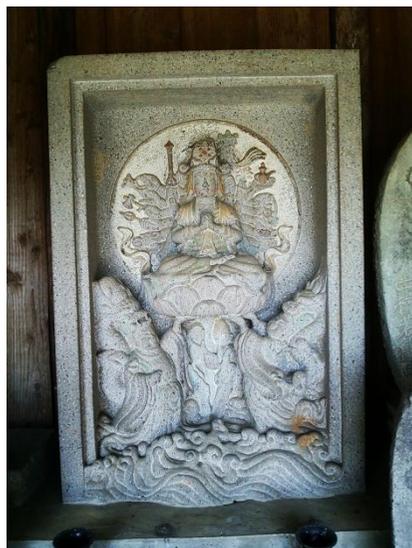
西番 路傍／准胝観音、中世石造物群など

中村神明社の右隣に木造の小堂が建てられており、10体の石仏が納められている。台石が1基残されているので、もう1体置かれていたのであろう。

中央の大きな箱型の石塔には、難陀龍王と跋難陀龍王によって捧げられている准胝観音が浮彫りされている。右側面に「安政五戊午季／西国三十三所之石此下」、左側面に「願主西番中村中／世話人伊兵衛／石工石屋邑喜右エ門」と刻まれている。安政五年には常願寺川氾濫による大洪水によって広い地域で壊滅的な被害を受けたのだが、西番地区は最も早く復興を遂げた。

准胝観音の右隣の地蔵は光背に「寛政八辰六月日／寒念佛中村若連中」と刻まれている。

堂の右には30基ほどの中世石造物が並べられている。この辺りにあった中世寺院の遺構と考えられており、平成二年に整備されている。



准胝観音



中世石造物群

中屋 曹洞宗林鐘寺跡／無縫塔など

林鐘寺は明暦二年創建と伝えられる。本尊は釈迦如来であった。昭和三十七年に移建されたが、その後廃寺となった。神明社横に歴代墓標などの石像物が残されているが荒廃している。

林鐘寺跡の石造物



大場 神明社／「牛頭天王」

神明社境内に、立派な石積みの台座の上に一基の石塔が建てられている。割石型の石塔で、正面中央に大きく「牛頭天王」と刻まれている。その上や左にも文字が刻まれているのだが、磨滅が激しく判読できない。また左側面に「…月建之」と刻まれているが、年号の部分が完全に剥落しており、造立年を特定できない。

牛頭天王は、本来は疫病を流行らせる行疫神であったが、祀り祈ることによって疫病を鎮める信仰へと変化していった。

大場の常願寺川堤防脇には、安政五年の大洪水の時に流されてきた巨石が残されている。



「牛頭天王」

城村 曹洞宗東陽庵／火天

東陽庵は文化十一年創建で、釈迦如来を本尊としていたが、近年廃寺となった。境内に建てられている石龕内に火天が納められている。立山街道の路傍にあったもので、銘は刻まれていないが、龕内に納められていた木札に「干時明治三十六年三月八日／石像火結大神創建／越中新川郡大田村／大字城村／産子一統」と書かれていた。これにより、産土神として造立されたことがうかがえる。現在はこの木札が失われてしまっている。



火天

城村 路傍／聖観音

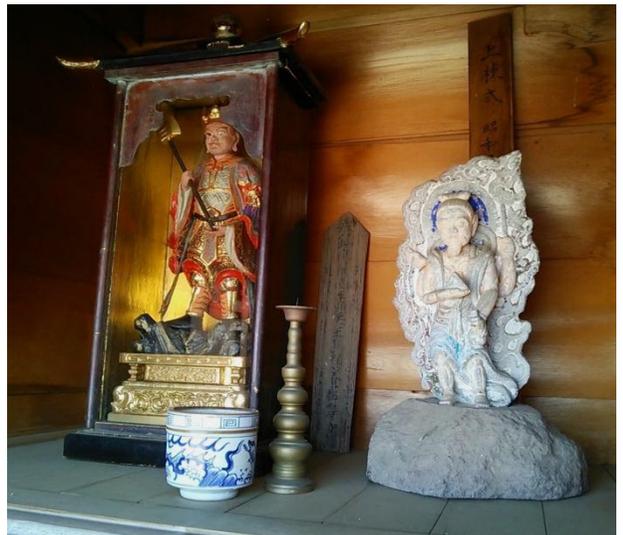
城村バス停近くに木造の小堂が建てられており、聖観音座像が浮彫りされた円盤型の石塔が納められている。側面や裏面を覗けないが、台石正面に「奉納大乘妙典六十六部／天下泰平／國土安穩」と刻まれ、その下に願主や世話人名も刻まれている。嘉永四年造立との調査報告があるので、側面あるいは裏面に刻まれているのであろう。



石屋 曹洞宗省山寺／木造牛頭天王、火天

省山寺は、清源寺が富山へ移建された跡地に建てられた。本尊は釈迦如来。近年無住となった。墓地の石塔群の中には、清源寺の開山塔も残されている。

門前の木造小祠内に、木造の牛頭天王と石造の火天が納められている。火天は万延元年に産土神として、惣産子中によって造立されている。



木造牛頭天王と火天

八川 曹洞宗青龍寺跡／五輪塔など

青龍寺は天正元年、清源寺三世大仲によって開山された。本尊は、胎内に十一面観音が納められた釈迦如来であった。近年廃寺となった。八川神社(旧八幡社)の神宮寺であった。

青龍寺跡地は整備されており、八川神社横に歴代墓標や五輪塔などの石造物が移されている。



八川神社横の無縫塔や五輪塔など

八川 路傍／馬頭観音

八川の県道174号線沿いの路傍に、石積みの基壇上に馬頭観音が建てられている。馬が荷車を曳いていた頃の昭和三年に、常西中部運送組合によって建てられたものである。



馬頭観音

関 関神社／弥勒菩薩、如意輪観音、青面金剛など

関神社境内にコンクリートブロック製の覆い屋が建てられており、十三基の石造物が納められている。前列に、弥勒菩薩、如意輪観音、阿弥陀三尊、青面金剛、地蔵で、後列には如来形座像6体と金剛界大日の種子「バン」を刻む板碑2基が並べられている。弥勒菩薩は文化九年、如意輪観音は嘉永六年、青面金剛は文政十三年の造立で、いずれも馬瀬口村の石工甚右衛門の作である。



関神社の石仏群

横内 路傍／青面金剛など

横内路傍のコンクリートブロック製の小堂に7体の石仏が納められている。右端に置かれている光背型の1面6臂青面金剛は合掌形で、無銘であるが県内最古級に相当するものである。



横内路傍の石仏群

太田 路傍／「疫神社」

太田バス停向かいの地蔵堂の隣に、笠付き角柱型の小さな石塔が建てられている。正面に「疫神社」と刻まれているが、他に文字などは刻まれていないようである。



太田南町 高野山真言宗刀尾寺／ 宝篋印塔、西国三十三ヶ所観音、中世石造物群

創始は大宝年間と伝えられ、本尊は金剛界大日如来。刀尾神社の別当寺であった。元和三年銘の不動明王は、刀尾神社の御神体であった。

境内には寛政七年銘の宝篋印塔、西国三十三ヶ所観音、中世石造物群などがみられる。少し離れた所にある墓地には、数多くの墓標や石仏などがみられる。



太田北区 的場清水／不動明王など

太田北口バス停のすぐそばに、的場清水と称される湧水がある。昭和頃までは水が湧いていたが、その後枯渇した。

清水脇に建てられている木造の小堂には、2体の不動明王と中世の如来形座像が納められている。

また清水のすぐそばの石龕には、合掌する小さな石仏(地蔵?)が納められている。その手前に燭台として角型の石が置かれており、前面に「刀尾権現本地不動明王」、右側面に「文化八未九月／別當立本山／現住萬龍代」と刻まれている。木造小堂内に納められているどちらかの不動明王の、本来の台石だったのであろうか。

